

第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『石をみがく』

アメリカ
シアトル日本語補習学校
小学四年 北脇 仁菜

石をみがく

シアトル日本語補習学校 小学四年

北脇 仁菜 (きたわき にな)

わたしは、今アメリカに住んでいます。そして、学校は、げん地の学校だけではなく、日本語補習学校にも通っています。わたしはその他にも、習い事として、ピアノ、ソフトボールと書道をしています。

ピアノの練習をしたり、宿題をしたり毎日はいそがしくて大へんです。けれどそのような時お母さんがいつも、

「石をみがいて、がんばって。に菜はたくさん石を持っているからほっておかないで。」と言います。

この石は、ただの石ではありません。この石は、目に見えない一人一人の才のうのことで「石をみがく」は、その才のうを人から見える物にかえることです。

わたしがこの言葉を聞くと勇気が出ます。そしてその言葉から力をもらいます。

先日、ピアノのオーディションがありました。初めて曲を決めてから何回も何回も泣きながら練習をしました。それから五ヶ月後に仕上げ、えんその動画をオーディションのしんさ員の先生にてい出しました。二ヶ月後に、けっかができました。中身はとてもいいひょうかでした。何も悪い所がないと書かれて、わたしは、とてもおどろきました。

その時わたしは、泣きながら練習したことを思い出しました。音ぶをよく見ながら、最初にゆっくりピアノをひいたことも思い出しました。「石をみがく」とは、そういうことなのです。

「石をみがく」とは、その事だけでは、つまらなく、つらく、泣きたくなることでもみがいてみがついて、さい後に石の光に気がついておどろくことかもしれません。

これからは、つらい時でも苦しい時でも、がんばれば、いつかすばらしいことができるということをおわたしのたから物の言葉にしたいと思います。

みなさんも、好きなことを、つらくても、がんばって下さい。それが石をみがくことです。